

図書館報

2011.8 vol.13

SEASON



池田文庫の歩み… 6

浅山 龍一 図書館長『『ハムレット』に思う』… 2

教員連載（全4回）

時代を担う学生に贈る 佐々木 諭 准教授『恩師との出会い — それは一冊の本から』… 4

おススメの一冊… 8

図書館からのお知らせ… 10

ISSN 1349-3760



『ハムレット』に思う 図書館長 浅山龍一

この書は、一般には「内省癖のある優柔不断な青年が、息子としてとるべき行動（父王殺しの犯人の確認と復讐）を忌避するなかで生まれた多くの不幸の物語」のように言われている（福田恆存訳『ハムレット』解説（新潮文庫）等）。

ハムレットの「優柔不断」の原因は何だろう。彼の眼に映る世の中は、不正・腐敗・不道徳に満ちており、排他的で事なかれ主義、あつかましいおべっか使いが横行。母の早すぎる再婚（不義）もあり、人間がすべて塵に見える——真面目な青年ハムレットには、「人生を生きる意味」がわからない。だから、わざわざ行動を起こす必要も感じないのである。

いざ行動を起こしても、犯人と思われる新しい王（叔父）に直接、自白を求める青年らしさはしない。旅の役者たちに彼が創作した暗殺芝居を演じさせ、それを見る王の“反応”を観

察しているのだ。王妃（再婚した母）にもこの芝居を通して反省、いや、猛省させようとしている。学生時代にこのあたりを讀んで、ハムレットの陰険さ、陰湿さを感じたことを覚えてい

る。

今回、読み直してみて驚いた。王が犯人らしき反応を示し、別の部屋に退く——そして、ひとり神に懺悔の祈りを始める。青ざめて「赦し」を乞っているのだ。その場面を垣間見て犯人の“確証”を得たと思ったハムレットは剣を抜き、「今こそ復讐を！」と逸るが、「いや待て」と自制する。「懺悔する者を殺したのでは地獄に送れない。救い難い悪行に耽っている時を待とう」というわけだ。これは、ふざけである！人の苦しむ姿を見て喜ぶ冷酷なサディストそのものではないか！とても道徳的とは言えない。皮肉にも、世の不道徳を嘆くハムレット自身が不道徳なのである。

浅山 龍一（あさやま りゅういち）館長

1976年 創価大学文学部英文学科卒業
1982年 創価大学院文学研究科
英文学専攻博士課程満期退学
1974年～1975年 米国 Gustavus Adolphus College 留学
1984年 創価大学文学部英文学科就任
1998年～1999年 米国 San Diego State University Adjunct
Professor

主要著書・論文
『英語コンサルタント』（南雲堂）
『英文和訳の征服』（双文社）
『対訳フランダースの犬』（英語教育協会）
他論文多数

本年も全学読書運動が始まった。多くの創大生がエントリーして下さり、嬉しく思う。図書館としても全面的に支援していきたい。

ある新聞社の調査によれば、2010年度の創価大学図書館の図書貸し出し数は学生一人当たりでみると、全国696の国公私立の大学図書館のうち、第3位である（1日平均1844名来館し、575冊貸し出している）。120万冊の蔵書があり、古今東西のあらゆる分野の名著が揃っている。創立者が若き日に読まれた「池田文庫」は

7万冊収められている。「読書の創価大学」を築き上げたいと願うものである。

全学読書運動では毎回、多くの書評を寄せて頂いているが、とくに読んでいただきたいと思うのは世界の大文学である。創立者も「本物の文学の中には、四季があり、波瀾万丈の歴史がある。世界の大文学を読むことによって、もっと奥の深い世界に入っていくことができる」「世界の舞台では、にじみ出てくる教養、人格がなければ、ほかのことがどんなに優秀でも尊敬されません。…どんな立場の指導者であれ、世界的な長編小説も読んでいないのでは、立派な指導者になれるわけがない」と仰っている（『人生の座標』162・163）。

皆さんの思索のきっかけにでもなればと思い、シェイクスピアの『ハムレット』について、最近気がついたことを綴りたい。

これ以外にも、ハムレットの不自然な言動、振る舞いはいくつもある。父のことを「立派な国王だった」と何度も言うにもかかわらず、その亡霊が地下からしつこく、場所を変えては語りかけてくると、「そこにいたのか、律儀者」とか「よく言った、もぐらさん」と諭す——いつしか、父を「もぐら」呼ばわりしているのだ。また、母の再婚が父の死後2カ月しか経っていないと責めるが、まわりは誰も——愛しいオフェリアでさえ

——早すぎるとは思っていない。ハムレットのひとりよがり

である。彼と母の会話——いや、母への説教（子が親にである！——を盗み聞きしている者に気がつき、剣で刺す場面では、それがオフェリアの父だとわかってても反省などしない。平然と死体を引きずりながら母への説教を続ける。何という神経！——

この後、オフェリアは発狂し水死。そして王が企んだオフェリアの兄とハムレットの決闘劇の中で、彼らとともに（巻き込まれた）王妃も王も死に、王国は滅びる。

これは、「人生の意味がわからなくなった」自己中心的な青年が陥る、気まぐれで破壊的（サディスティック）な生き方——そこに多くの人が巻き込まれ不幸になる——を描いた作品とはいえまいか。そして、読者がそこに他人事とは思えぬ“警告”を感じ取るところに、この書が世界中で愛され続ける一つの理由があるのではないだろうか。



教員連載
時代を担う
学生に贈る
佐々木 諭 准教授

第1回
『恩師との出会い
—それは一冊の本から—』
(連載全4回)



佐々木 諭 (ささき さとし) 先生
1986年 創価大学 入学
在学中にモスクワ大学留学
1991年 創価大学大学院博士前期課程進学
1994年 同課程修了
1995年 英マンチェスター大学大学院へ進学
開発経済を専攻
1996年 特定非営利活動法人 AMAD 入社
ボスニア・ヘルツェゴビナ、ルワン
ダ等の事務所に駐在
2000年 国際協力機構 (JICA) の専門家派遣
でザンビアに。
2003年 岡山大学大学院博士課程進学
2005年 新潟大学大学院博士課程編入
2007年 同修了 (医学博士取得)
新潟大学大学院医歯学総合研究科助教
2010年 創価大学学士課程教育機構 准教授

創大生のみなさん、こんにちは。今回より本コーナーを担当することになりました。これからの世界を担う創大生と語り合うような思いで執筆します。

第1回目は、私の人生の中でも最も大事な時期であり、そして今の自分の土台を作った創価大学時代について述べます。大学での生活をいかに有意義に過ごすことができる

か? 「良き教員と出会い、良き先輩と出会い、良き友人と出会えること」——これは、

大学入学直後にある先輩が語られた言葉でした。まさに私の大学時代は、学問のみならず人生について多くの薫陶を受けた尊敬する教員、憧れでもあり目指すべき先輩、ともに励まし競い合える生涯の友人との出会いにより、創価大学の日々は色褪せることのない

い人生の原点となつていきます。今回はその中でも恩師である教員について記します。

1986年に入学した私は、「ロシア・ソビエト研究会 (現ロシア研究会)」に所属し、その顧問をされていたのが故酒井一之先生でした。酒井先生との出会いにより、ロシアやソビエトの歴史、政治、文学を学びながら、人生の師匠を持つことの素晴らし

さ、使命に生き抜くことの尊さ、確固たる信念を持つことの重要さを学ぶことができたのです。

当時のソ連は社会主義国であり、日本の中には敵対的な意見を持つか、または怖い国と恐れている人が多くいました。酒井先生は、「まずは自分の目で見て確かめることが大事である」との信念のもと、毎年春休みには学生を連れて

ソ連を訪れていました。その根底にあったのは、創立者池田先生の「ソ連が怖いのではない、ソ連を知らないことが怖いのです」との言葉であり、そして、ソ連との緊張感が高まった時にあえて「そこに人間がいるから私は行くのです」との池田先生の平和への確固たる行動への畏敬でした。まさにその思いのままに、

酒井先生は創立者が目指される世界平和に尽くす人材を育てることに限らない情熱を持

ち、厳しくも慈愛を込めて私たちを育ててくれました。

中でも忘れ得ぬ思い出が大学1年次の春に初めて訪れたモスクワ大学です。その威風堂々たる威容に圧倒されていると、酒井先生が池田先生の言葉を引用されながら、モスクワ大学の淵源を話して下さいました。モスクワ大学の名称はロモノーソフ記念モスクワ国立総合大学とい

衆のための大学として建学されました。ソ連の中でも創立者の名を冠した大学は少なく、モスクワ大学は今でも創立の精神を誇りとし発展し続けています。そこには、創価

大学とも深く相通じるものがあり、モスクワ大学サドービニツチ総長も、大学において最も重要なことは、いかなる創立者、創立の精神をもって生まれたかにあると語られています。創立の精神を受け継ぎ、それを語り、果たしゆくために尽くす教員がいることは大学の誇りでもあり、そのような恩師と出会えることこそ財産であると思います。

思えば、私がロシアに興味を持ち、創価大学でソ連・ロシアについて学びたいと心に決めたきっかけは、高校時代の一冊の本との出会いでした。それは、トルストイの最

晩年の大作「復活」です。トルストイの描く人間の魂の蘇生と限らない人間への優しい眼差し、社会の不合理に対する鋭い批判に惹き込まれ、時

間も忘れ一気に読み、醒めやまない感動の余韻が続いています。ロシア文学の人間に対する深い洞察と善と悪、正と不正を共に内包する懐の深さに魅了され、さらにドストエフスキー、ツルゲーネフ、チェーホフなどの作品を読むようになりました。



上：モスクワ滞在中の佐々木先生
左：『復活』トルストイ【著】木村浩【訳】新潮社
復活 上 トルストイ

一冊の本と出会い、そこから自分の人生を大きく開く出会いに繋がる。創大生の皆さんにも、是非とも心に残る本との出会いを見つけ、さらに人生をより深く充実させる人との出会いにつなげていただきたいと思います。

池田文庫の歩み

池田文庫とは

中央図書館A書庫7層には、創立者より寄贈して頂いた書籍

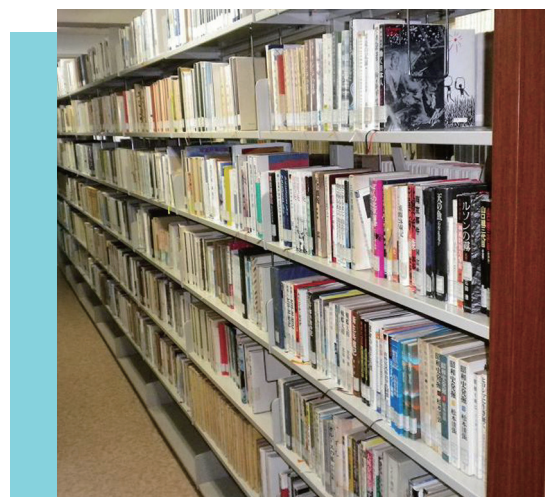


を「池田文庫」として設置しています。創立者が少年期に読まれた本や、恩師戸田城聖先生のもとで学ばれた際に使用された教材など、その冊数は7万冊にも及んでいます。

これらの著作の中には戦時中、創立者が防空壕に運ばれ、戦火を免れた貴重な書籍も所蔵されています。学生の皆さんにとっても重要な池田文庫の成り立ちと発展について、特集を組みました。

構想発表

池田文庫は1993年に行われた第22回創



約7万冊にのぼっている。それの中には、戦時中、防空壕に入れて守ったため、かなり傷んでいるものもある。その7万冊の本を創価大学に寄贈したい。1冊1冊の本に、私にとって多くの思い出が込められている。どうか読書と研鑽に役立てていただければと思います」

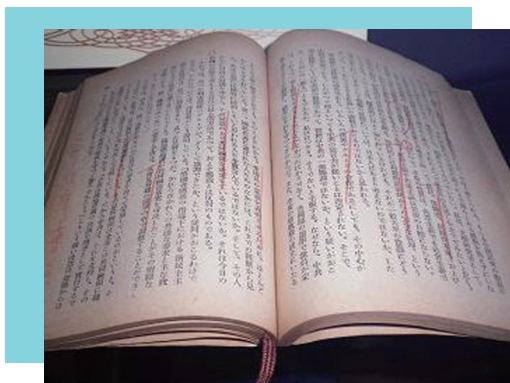
価大学滝山祭記念フェスティバルでの創立者の記念講演において、その設置が発表され、関係者の要望により「池田文庫」の名前に決定しました。この講演のなかで創立者は次のように語られました。

そして寄贈に際し『学生の皆さんが、大いに読み、活用して実力を磨き、成長してくれるならば、こんな嬉しいことはない』とのご伝言も添えられました。この発表の後、4年間の整理期間を経て、池田文庫は正式に開設されました。

開設当初

1997年5月8日に開設された池田文庫ですが、その反響は大きく、当時の新聞には次のように掲載されました。

「池田文庫は、創立者の若き日からの蔵書約7万冊が所蔵されるもの。『池田文庫』との名称は、関係者の強い要望により命名された。文庫の中には、ホイットマンの『草の葉』がある、そして、『三



術、語学、文学など、広範囲に及んでいます。当時の大学などでも使用された研究書や、全集岩波文庫など様々な種類が網羅されています。

創立者が当時の青年たちと学ばれた『新訳水滸伝』『モンテ・クリスト伯』『三国志』などや、恩師戸田先生のもとで学んだ際、教科書として使用された『法学原論』や『経済学入門』『新科学大系』などがあります。

また、戸田先生より譲り受けた『九十二年』の表紙見返しには「戸田先生より給わりし本也 昭和二十五年十二月池田大作」との創立者のご揮毫も残っています。

池田文庫に所蔵されている資料分野は哲学、歴史、政治、経済、自然科学、工学、産業、芸

所蔵図書

その後の発展

2007年春から秋にかけて、池田文庫開設10周年を記念して「池田文庫開設十周年記念特別展」を大々的に開催しました。

この展示では貴重図書や創立者のご揮毫図書、著名人、文化人から創立者に贈呈された署名入り図書などを展示しました。

特別展終了後、多くの方からご要望いただき、第二期特別展を開催。累計約25000名もの方にご来場いただきました。その後、2008年4月に改装、現在の形となりました。

ご利用にあたって

池田文庫に所蔵の図書は、館内であれば閲覧することが出来ますので、ぜひご利用ください。

また書庫利

用力ウンターの横に池田文庫の目録が置いてありますので、是非一度、手に取ってご利用ください。

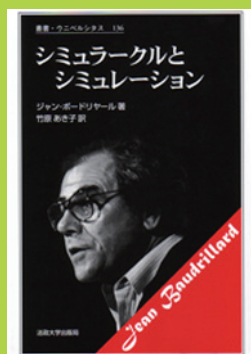
図書館では、池田文庫を、創価大学の永久財産として、継承していきます。



シミュラクルとシミュレーション

ジャン・ボードリヤール【著】竹原あきこ【訳】

法政大学出版局



衝撃！

記号や意味によってつくられた社会の構造を見事に暴いている一冊。

読むと、いま目にしている世界が現実なのか、仮想現実なのかかわからなくなり、まさに世界が一転する感覚を覚えます。

この本に強く影響を受けてつくられた映画「マトリックス」を同時に観るとさらに面白い！

神様のカルテ

夏川草介【著】 小学館（小学館文庫）



一気に読める本

夏目漱石を敬愛する主人公 一止は、しゃべり方がまさに漱石風。

信州の地方病院で内科医と勤務しながら、実際は人手が足りず自分の専門でない範囲の診療まで行う。

深刻な医師不足の現状と、心優しい一止が様々な病状の患者と向き合う姿を描いた作品。

二十歳のころ〈1〉

立花隆 + 東京大学教養学部立花ゼミ【著】

新潮社（新潮文庫）



理想像に出会える 1 冊

「二十歳のころ、どんな風に過ごしましたか？」
有名無名、老若男女、さまざまな肩書きの人へ、大学生がインタビューした 1 冊。
輝ける青年期をどう過ごすかで、後の人生は大きく変わる。

あなたはどんな大人になりたいですか？

図書館スタッフが選んだ おススメの一冊

夏休みに
お気に入りの
を見つけよう

40 — 翼ふたたび

石田衣良【著】 講談社（講談社文庫）



大人になったらわかる本

若者文化を描いてきた作者が生きることの困難とその先にある希望を見つめて、初めて同世代を描いた作品。

はつらつとした輝きを失い、半ば人生をあきらめたかのような作中の人物が、くたびれた主人公の一言によって救われる。

…この本は大人にならないとわからないだろうな。

レ・ミゼラブル〈1〉

ヴィクトル・ユーゴー【著】豊島与志雄【訳】

岩波書店（岩波文庫）



精神の真髄 凝縮された一冊

フランスの文豪ユゴーが、1862 年に出版した名著。

フランスを舞台に主人公ジャン・ヴァルジャンを中心として様々な人間と、真実の愛が描かれている作品。

コゼットに対する愛やジャベールの執念、テナルヴィエの悪人っぷりなどを通して人間へのまなざしに気づかされる。

世界の終りと ハードボイルド・ワンダーランド

村上春樹【著】 新潮社



楽しかった本 1 位

この作品は「世界の終り」と「ハードボイルド・ワンダーランド」の章に分かれており、「僕」と「私」が章ごとに交互に入れ替わりながら、パラレルに物語が進行する。

2 つの章が、空間と時間が徐々に重なっていく時のドキドキ感を楽しむために、物語を交互に読む王道パターンと別々の物語として読んでしまう邪道パターンがあるのも魅力的です。

僕は「ハードボイルド・ワンダーランド」→「世界の終り」の邪道パターン推しです！

鬼平犯科帳 〈一〉

池波正太郎【著】 文藝春秋（文春文庫；新装版）



TVドラマ・映画を観てからでも 原作全 2 3 巻を読破できた魅力ある本

江戸時代実在した、火付盗賊改役長官 長谷川平蔵を主人公にした時代小説。
青年時代は放蕩無頼の風来坊で、剣術の修行をつみ「本所の鐵」と恐れられていた。

42 歳で火付盗賊改役長官に就任してから、斬り捨て御免の権限を持ち、盗賊たちには“鬼の平蔵”と恐れられている。しかし、その素顔は義理も人情も心得た苦勞人であり、彼を中心に、さまざまな浮世の出来事を描き出している。

図書館からのお知らせ

2010年12月15日、韓国のソウル大学において、ソウル大学中央図書館と創価大学附属図書館との交流協定を締結しました。調印式には浅山図書館長等4名が本学を代表して出席しました。

ソウル大学は3万人近くの学生を擁しており、蔵書数400万冊に加え、電子書籍を積極的に導入するなど、韓国でも有数の図書館です。また、膨大な学術資料の利用をサポートする為に、文献知識情報に関する講座や、データベースの講習会等を多角的に開催しています。

さらにインターネットを活用した最新技術

も、精力的に導入し高度なサービスを実現されている図書館です。

ソウル大学の金館長は、「今回の協定によって図書館司書の相互交流を行い、お互いの優れた面を吸収し、お互いの更なる発展を期待しています」と語られました。



ソウル大学で調印する
金館長（左）と浅山館長

図書館

Q & A

Q 図書館を24時間あけてほしいのですが無理ですか？

A 24時間開館するのは大変に困難と言わざるを得ない状況です。

光熱費や人件費、治安対策などの面や、交通機関などのインフラが未整備な面などがその理由としてあげられます。

Q ベストセラーの本をもっと増やしてほしいんですが。

A 公共図書館のようにベストセラーの本をたくさん揃えてしまうと、その分、学術図書購入数が減ってしまいます。お気持ちは分かりますが、ご理解ください。

Q お勧めの本などを読んだ人の感想とかを添えて教えてほしい。

A 実際に読まれた方の感想は大いに刺激になると思います。

全学で取り組んでいる「Soka Book Wave」にお寄せいただいた

感想を、SBWのHPや検索結果の詳細画面などで公開しておりますので、そちらをご覧ください。

Q 背表紙の文字がかすれて見えにくいものは、修理をしてください。

A 背表紙がかすれている本にお気づきの場合は、カウンターにお知らせください。

修復可能なものについてはこちらで修復させて頂きます。

Q 「参考書」や「禁帯出」の本を、『一時貸出』のような形で貸出できるようにしてほしいのですが。

A 参考書及び、禁帯出の本は、多くの人が利用される本や、図書の一部しか利用しないためコピーをとれば十分である本などが該当しております。

利用したい時に該当図書がないという状況が発生させないためにも、貸出を行うことは出来ません。